

青森県の道路事業におけるストック効果事例 一覧表

【青森県道路課】

No.	路線名・事業名	ストック効果	分類	備考
1	(主)五所川原岩木線掛落林工区、 (一)常海橋銀線上常海橋～福館バイパス ほか	津軽横断道路が『青森りんご』の流通を支援!!	産業（農業）、物流	これまでに発揮されたストック効果
2	(主)八戸環状線糠塚工区、中居林工区 ほか	環状道路開通で分譲が増加!! 街が賑わう	都市形成、救急医療	これまでに発揮されたストック効果
3	(主)夏泊公園線茂浦～浦田BP ほか	夏泊半島活性化!! 地域を繋ぐ道路整備	地域づくり	これまでに発揮されたストック効果
4	津軽自動車道、一般国道339号五所川原北バイパス、 電線地中化、アーケード撤去	80年ぶりに復活!! 五所川原 立佞武多（たちねぶた）	観光	これまでに発揮されたストック効果
5	下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス	高速交通ネットワークが 下北半島の経済活性化を支援	産業（工業）	これまでに発揮されたストック効果
6	下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス	風力発電の拠点形成に一役!!	産業（エネルギー）	これまでに発揮されたストック効果
7	下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス	「交通事故が減った!!」 安全・快適な地域高規格道路	交通安全	これまでに発揮されたストック効果
8	下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス	鮮やかな黄色 360度見渡す限りの菜の花畑が身近に	観光	これまでに発揮されたストック効果
9	一般国道279号、一般国道338号、 下北半島縦貫道路 むつ南バイパス	地域経済の好循環 ～人口減少対策、コンパクトシティ形成～	都市形成、広域連携	これまでに発揮されたストック効果
10	一般国道339号五所川原北BP	陸・空・海路で広域周遊観光活発化に期待!! 地域内交通を支える道路整備	観光	今後期待されるストック効果
11	下北半島縦貫道路	三次救急医療圏域の拡大 ～『いのちの道』の形成～	救急医療	今後期待されるストック効果
12	下北半島縦貫道路	二次救急医療空白域の解消 ～横浜町の安全・安心～	救急医療	今後期待されるストック効果
13	下北半島縦貫道路	『大間まぐろ』の物流を強化。 さらなる高ブランド化へ!!	産業（水産業）、物流	今後期待されるストック効果
14	高規格幹線道路等の 主要幹線道路ネットワーク整備	道路ネットワーク整備により 農林水産物の流通拡大を支援	物流	今後期待されるストック効果
15	高規格幹線道路等の 主要幹線道路ネットワーク整備	東北一のクルーズ船寄港「青森港」からの 外国人観光客周遊を支援	観光	今後期待されるストック効果



青森県基本計画

## 未来を変える挑戦

～強みをとことん、課題をチャンスに～

Aomori Prefectural Government Master Plan  
Changing the Future of Aomori  
Breakthrough Innovation



# 青森県の道路事業における ストック効果事例

青森県 道路課

平成28年1月28日



〔主要地方道 五所川原岩木線 掛落林工区、一般県道 常海橋銀線 上常海橋～福館バイパス ほか〕

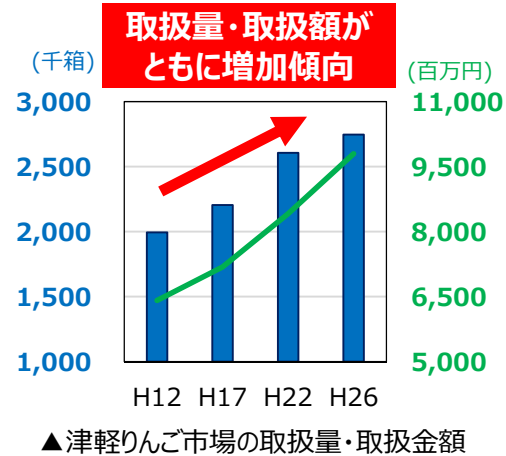
# 津軽横断道路が『青森りんご』の流通を支援!!

- ◆ 津軽りんご市場では取扱量・金額ともに増加傾向にあることからH27に**第二卸売市場を増設**。今後、さらに敷地を1ha拡大し、**冷蔵庫の増設や競り後の積み込み場の拡張を計画**。計画に合わせ**正社員の雇用を増やしている**
- ◆ 津軽横断道路の全線整備により、りんご・加工品の出荷は浪岡ICからの**高速道路利用が増加する見込み**となり、**物流の効率化による『青森りんご』の海外等への販路拡大に期待**

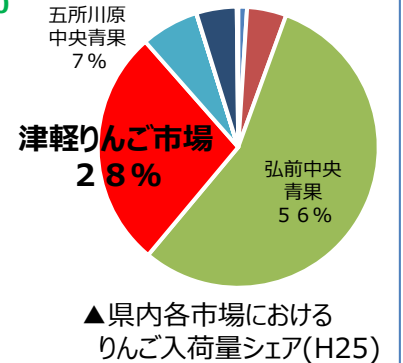
## 津軽横断道路



## ストック効果



## 県内の約3割を占める大市場



## 地域の声

株式会社津軽りんご市場  
取締役副社長 石戸谷 繁氏



搬送時間の短縮は、りんごの収穫における作業効率の向上にもなり、**収穫したりんごを余すことなく捌けるようになったこと**から、農家の所得も上がるなど、道路整備が及ぼす影響は産地・市場と密接な繋がりがあ

市場での取扱量が増えてきたため、H27.10には**2号館を増築**したところであり、捌かれたりんごの**約3割は海外に出荷**されているようです。

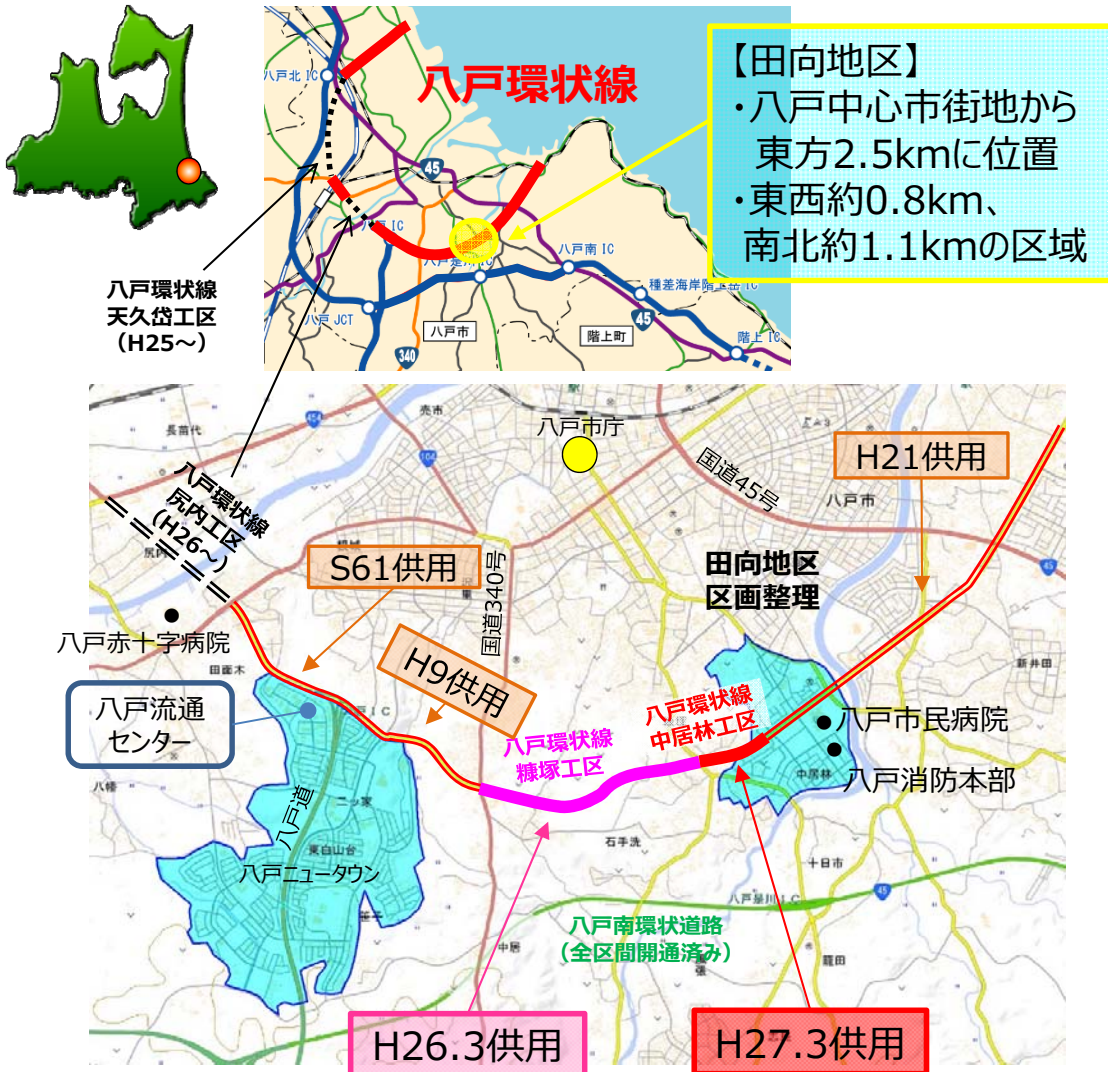
津軽横断道路の整備は、物流体系の再編や交流圏の拡大により農産物や観光等すべてにおいて地域に大きな活力を与えるものであり、早期完成を願います。



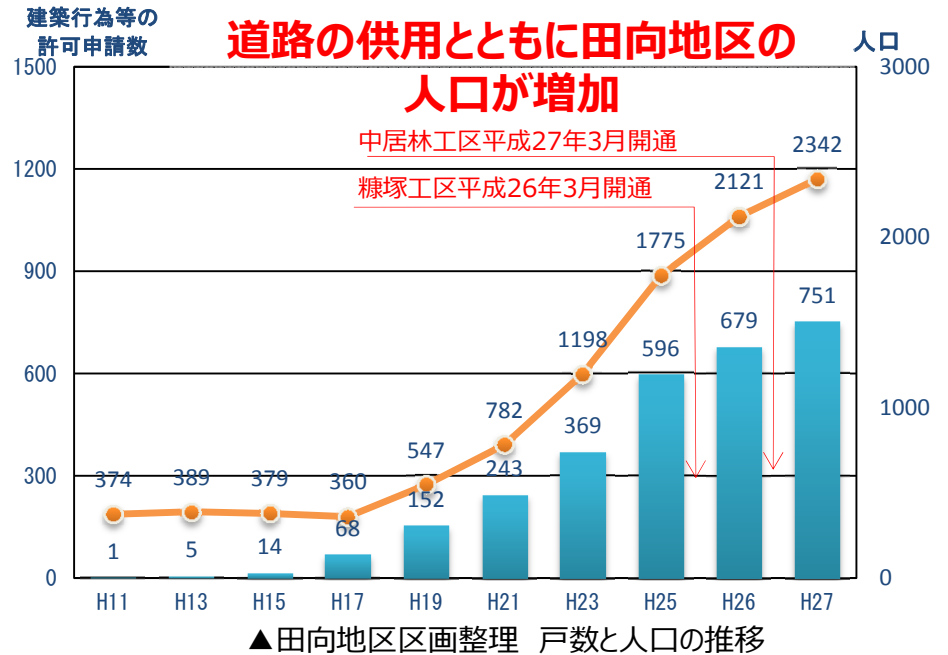
〔主要地方道 八戸環状線 糠塚工区、中居林工区 ほか〕

# 環状道路開通で分譲が増加!! 街が賑わう

- ◆都市の骨格をなす八戸環状線の整備と併せて、**田向地区に住宅や公共施設、商業施設が次々と立地**。人口が増加し、街の賑わいが創出
- ◆沿線に八戸市民病院・八戸消防本部が移転し、**迅速で安定した救急搬送が可能に**



## ストック効果



## 地域の声

【八戸流通センター内の企業等42社へアンケート】

- ・時間短縮により、客先までの移動が早くなった。
- ・商圈エリアが広がった。
- ・時間短縮により、訪問件数が増えた。
- ・4車線道路で大型車が安全に通行できるようになった。



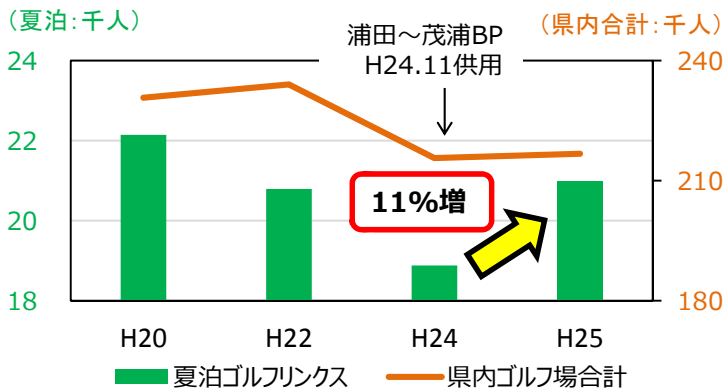
〔主要地方道 夏泊公園線 茂浦～浦田バイパスほか〕

# 夏泊半島活性化!! 地域を繋ぐ道路整備

- ◆ 浦田～茂浦BP開通でゴルフ場へのアクセスが向上、開通前に比べて利用者が増加
- ◆ 道路の安全性が向上した結果、マラソン大会やサイクリングイベントが企画・開催され、**地域振興や健康増進等に寄与**



▲浦田～茂浦バイパス



▲ゴルフ場利用者数



▲東滝拡幅



▲白砂法面対策(災害復旧、災害防除)



▲夏泊はたて海道トンネルマラソン大会 (平内町広報紙) ※2015.7.26(日)に第3回目を開催



▲夏泊半島ブルーロードライド (夏泊半島ブルーロードライド実行委員会) ※2015.10.11(日)に第2回目を開催



〔津軽自動車道、一般国道339号五所川原北バイパス、電線地中化、アーケード撤去〕

# 80年ぶりに復活!! 五所川原 立佞武多 (たちねぶた)

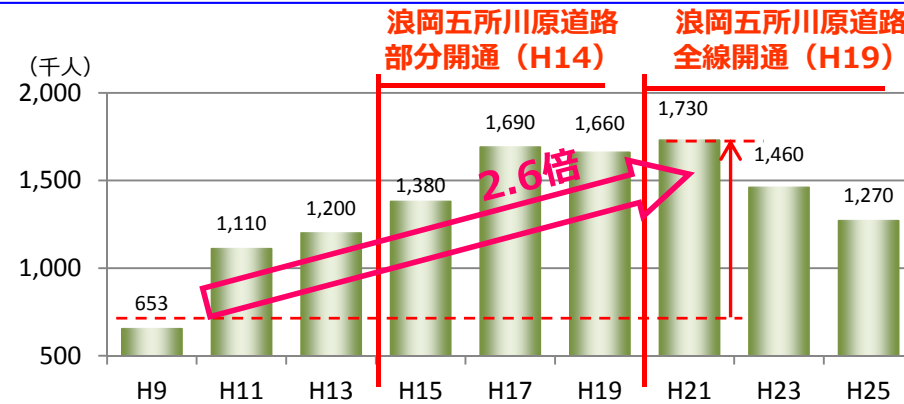
- ◆ 明治・大正時代に行われていた立佞武多。電線の普及で立佞武多は次第に小型化し、消滅
- ◆ 平成8年に市民有志「たちねぶた復元の会」結成、平成10年には80年ぶりに立佞武多が復活
- ◆ 本格的な祭り復活の機運が高まり、市街地の電線地中化・アーケード撤去を進めた結果、規模が年々拡大
- ◆ 津軽道や国道339号BPが次々に開通しアクセスが向上。観光客が増加。
- ◆ 平成27年、日本を代表する祭りとしてサンパウロカーニバルに出陣。五所川原市は観光庁長官表彰を受賞。  
観光客のさらなる増加が期待される



▲ 大正時代の立佞武多



▲ 五所川原立佞武多祭り



▲ 五所川原立佞武多祭りのイベント入込客数



▲ アーケード撤去・電線地中化



▲ 電線地中化 (国道339号)



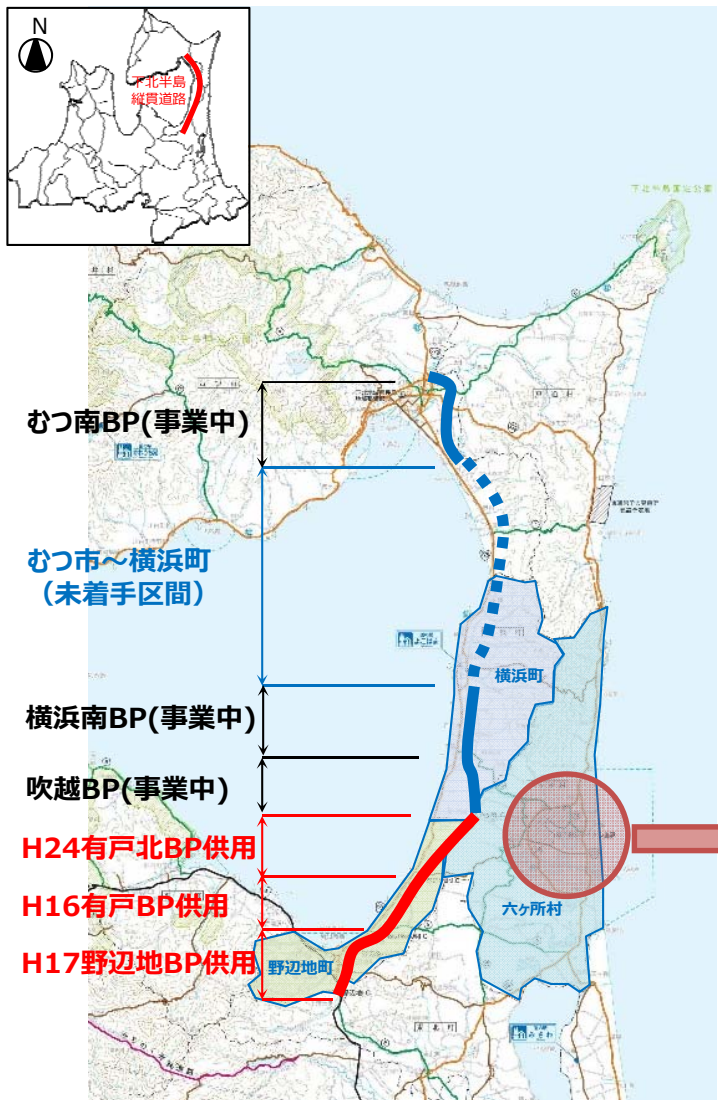
▲ サンパウロカーニバルに出陣した立佞武多 (日伯修好通商航海条約締結120周年記念プロジェクト) [撮影：仁尾帯刀氏]



〔下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス〕

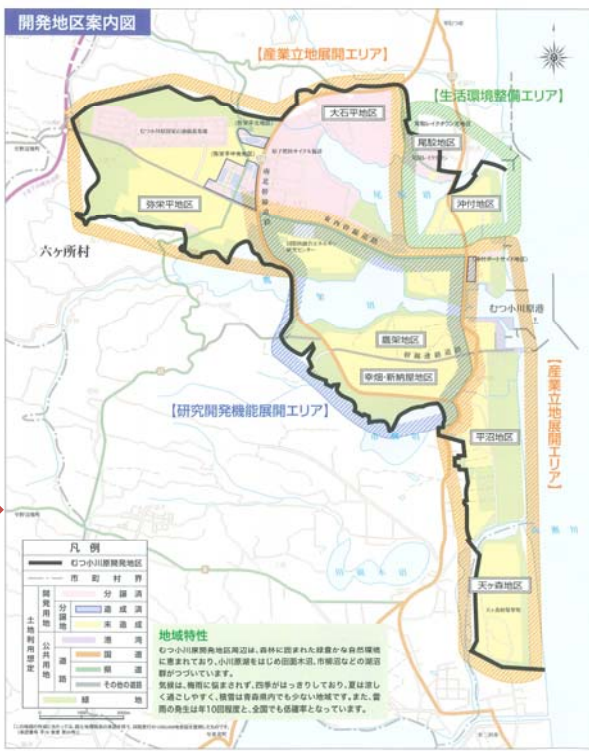
# 高速交通ネットワークが下北半島の経済活性化を支援

- ◆ 下北半島縦貫道路が順次開通し、高速交通ネットワークが拡大
- ◆ 供用区間沿線の自治体においては、**製造業従業者数が増加傾向**
- ◆ 今後、未供用区間の早期完成により、下北半島全域への経済波及効果に期待

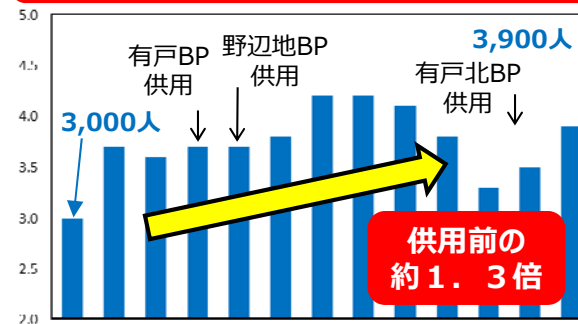


## むつ小川原開発地区（六ヶ所村）

原子燃料サイクル施設など国家エネルギー施設が多数立地されている大規模工業地帯で、近年では環境、エネルギー、科学技術の研究開発と成長産業等の立地を図る「科学技術創造圏」の形成を目指している。



## 12年間で雇用900人の増加



※沿線自治体は野辺地町、六ヶ所村、横浜町の3町村  
出典：工業統計調査

▲沿線自治体の製造業従業者数

## 将来的なアクセスの良さを見越して 線量計測事業大手が立地

平成18年 事業所開設  
 平成26年 バッチセンター  
 用地取得  
 平成29年 センター稼働予定



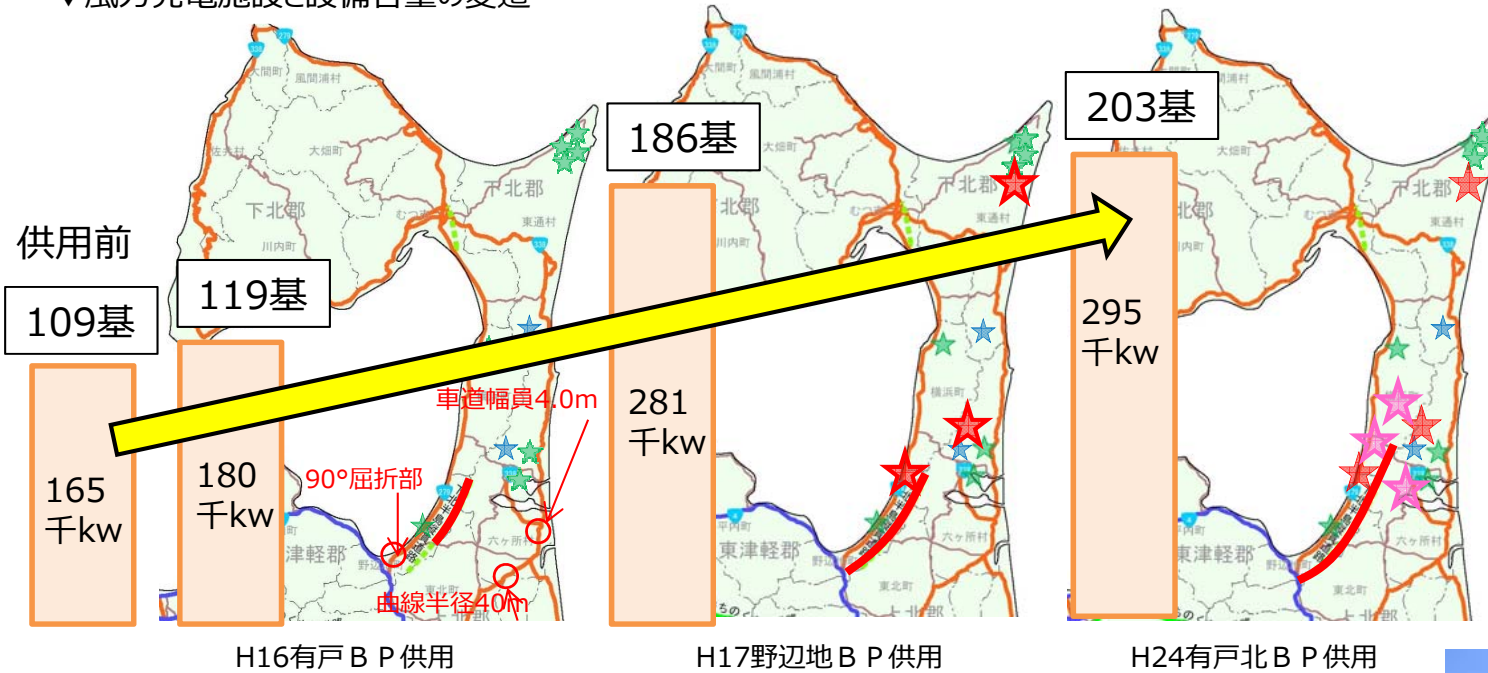
(株)千代田テクノル青森事業所 所長  
 「東日本大震災の経験から、事業リスク分散のため、茨城県の大洗工場のガラスバッチライン移設を検討。  
**下北半島縦貫道路 I C に直結し、将来的には上北自動車道の整備が見込まれるアクセスの良さやエネルギー関連施設が集積しているところに事業所を立地。製品は全国の医療機関等へ出荷している**」

〔下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス〕

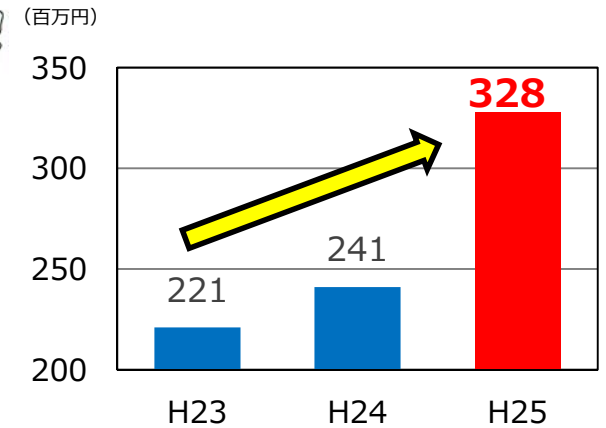
# 風力発電の拠点形成に一役!!

- ◆ 幅員の広い自動車専用道路が、風力発電施設の大型部材の運搬を容易に
- ◆ 施設数・発電容量の増加に伴い、メンテナンス業務(点検・補修等)も増加傾向
- ◆ 今後も下北地域の成長産業として発展が期待される

## ▼風力発電施設と設備容量の変遷



## メンテナンス外注額も増加傾向に



▲県内への風力発電メンテナンス外注額

## 日本一の風力発電先進地域へ

はじめに

### 活かそう地域資源・青森県は風力発電日本一

青森県は、ついに風力発電施設設備容量が全国一の風力発電施設集積地となりました。(平成21年7月)

9割以上の施設が野辺地から下北半島の地域に密集する特異な地域であり、大手風力発電事業者の全国的なリモート管理拠点にもなっているだけでなく、全国でも初の出力制御型風力発電施設が設置される等、風力発電の最前線となっています。



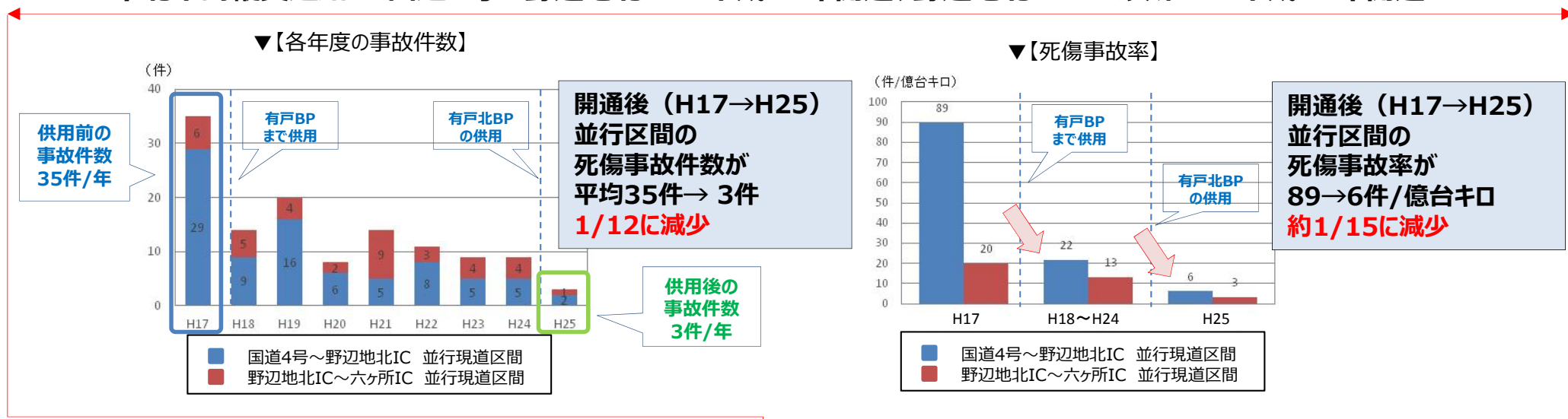


〔下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス〕

# 「交通事故が減った!!」安全・快適な地域高規格道路

◆下北半島縦貫道路の野辺地、有戸、有戸北バイパスの併せて19.2kmが供用した結果、並行現道である国道279号の**事故件数・死傷事故率は1/10以上まで大幅に減少**し、安全で快適な通行が可能に

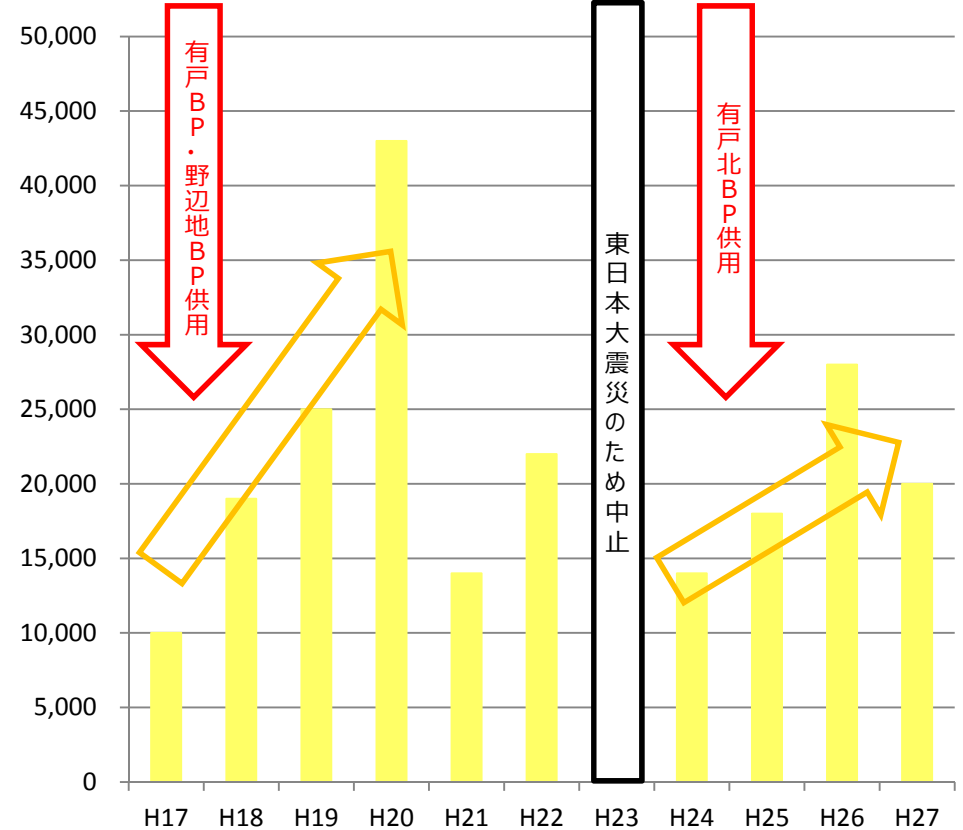
下北半島縦貫道路 国道4号～野辺地北IC：平成17年開通、野辺地北IC～六ヶ所IC：平成24年開通



〔下北半島縦貫道路 野辺地バイパス、有戸バイパス、有戸北バイパス〕

# 鮮やかな黄色 360度見渡す限りの菜の花畑が身近に

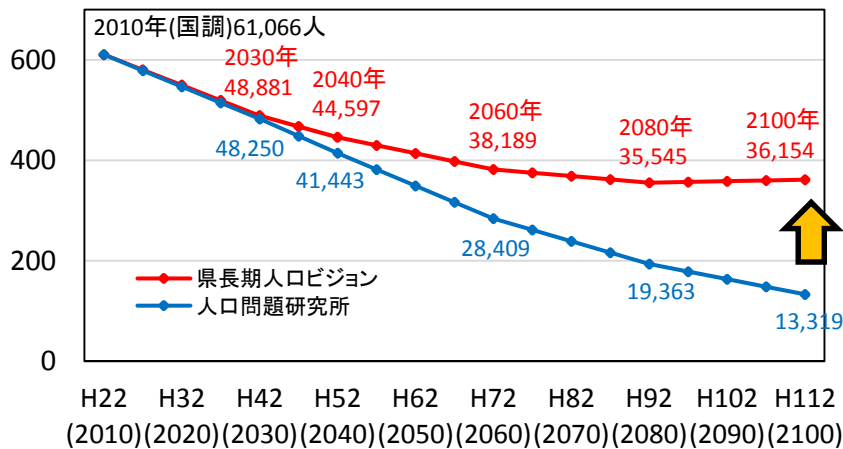
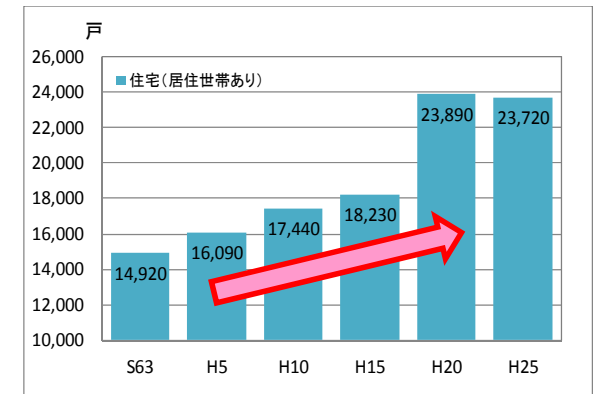
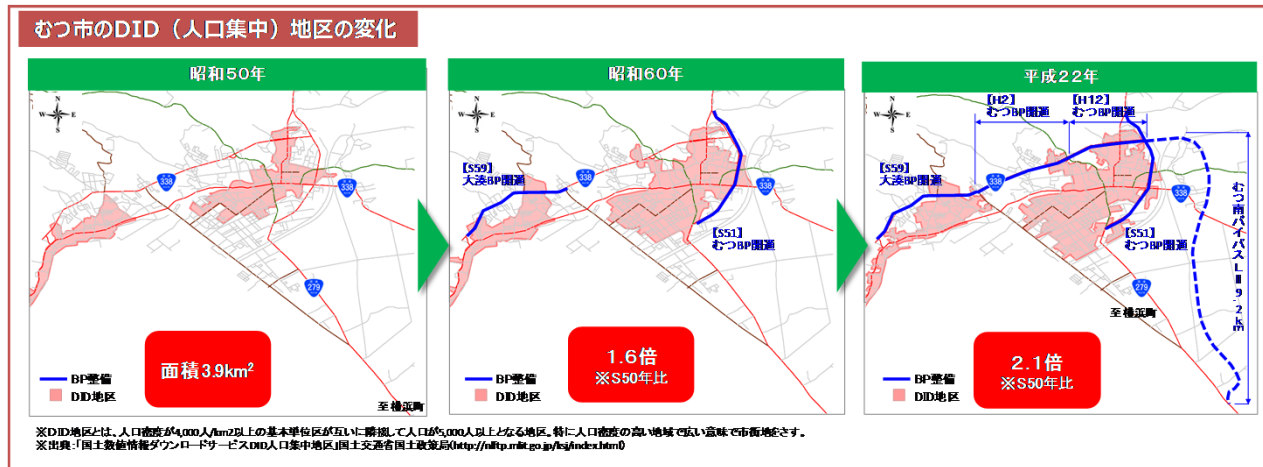
◆下北半島縦貫道路の開通により横浜町へのアクセスが向上、「菜の花フェスティバル」への入り込み数が増加傾向に





# 地域経済の好循環 ～人口減少対策、コンパクトシティ形成～

- ◆これまで、国道279号及び国道338号のバイパス整備に伴い、沿線にDID地区が形成され、住宅・商業施設が立地するなど地域経済が活性化
- ◆今後の人口減少下において、むつ市は「コンパクト+ネットワーク」の考え方にに基づき、拠点化と交通ネットワークの充実により、都市経営コストの適正化、人口密度の維持、既存施設の有効活用などを図ることとしている
- ◆下北半島縦貫道路の全線整備により、下北地域の中心都市であるむつ市と周辺市町村、中核都市である青森市・八戸市との広域連携が図られ、地域の維持、活性化に寄与



※「国勢調査」、「人口問題研究所」、「青森県長期人口ビジョン」のデータを用いて便宜的に推計

## 青森県長期人口ビジョン 目指すべき将来の方向

### ① 魅力あふれるしごとづくり

県内定着や移住促進に向け、生活の基盤となるしごとづくりが最重要。戦略的な企業誘致、創業・起業の促進等で雇用の創出に取り組む

### ② 住んでよしの青森県づくり

若者の地元定着や県外に流出した人財が県内に戻って活躍できる環境づくりに向け、「人財の地産地活」などに積極的に取り組む

## コンパクトシティの推進

- むつ市は人口減少下において、都市経営コストの適正化、人口密度の維持、既存施設の活用を図るためコンパクトシティを推進、立地適正化計画を策定予定(H29.3)
- 「コンパクト+ネットワーク」による地域の維持・活性化

企業誘致・雇用創出等による人口減少対策や、持続可能なコンパクトシティ形成のために  
**下北半島縦貫道路の整備が最重要**

〔一般国道339号 五所川原北バイパス〕

# 陸・空・海路で広域周遊観光活発化に期待!! 地域内交通を支える道路整備

- ◆ 自然や祭り、文化など魅力ある観光コンテンツを有する津軽地域
- ◆ 北海道新幹線開業、中国定期便の開業を控え、函館地域との広域周遊観光に活発化の兆し
- ◆ 陸・海・空の交通インフラを最大限活用したインバウンドなど観光振興に期待

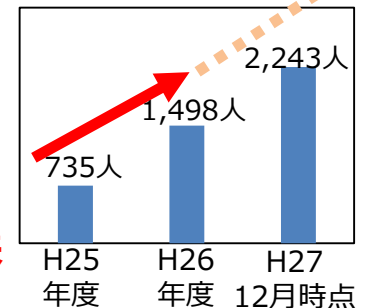


## ストック効果

鉄道(新幹線)・空路(航空機)・海路(クルーズ船)・道路を立体的に組み合わせた「広域周遊立体観光」が加速!!

国内外から観光客を呼び込む大きなチャンスが到来

五所川原市内  
外国人宿泊者数  
3年間で3倍



## 地域の声

NPO法人かなぎ元気倶楽部  
専務理事 伊藤一弘氏  
(斜陽館館長)



今年、斜陽館の来館者数が180万人を達成しました。

津軽自動車道と一体となった国道339号五所川原北BPが全線開通することにより、これまで以上に津軽半島観光(立佞武多・太宰治記念館・十三湖・竜飛など)の活性化が図られる。

また、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅の開業に伴い本路線は二次交通路線として利用が見込まれることから、津軽半島の観光産業は大きなチャンスを迎え、観光客の増加が期待される。



〔下北半島縦貫道路〕

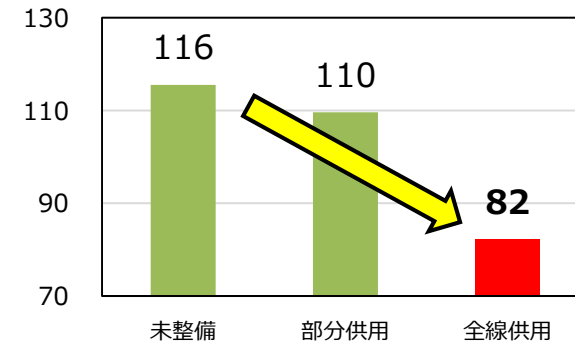
# 三次救急医療圏域の拡大 ～『いのちの道』の形成～

- ◆ 下北縦貫の整備により、三次救急医療施設である県立中央病院の60分圏域が拡大
- ◆ むつ総合病院から青森県立中央病院への救急搬送には約2時間要しているが、全線供用により30分以上の時間短縮。地域の救急医療サービスレベルが大きく向上
- ◆ 搬送における高規格道路利用の割合が94%に。揺れ・振動など患者への負担が軽減

## 三次救急医療圏域の拡大 (青森県立中央病院の60分圏域)

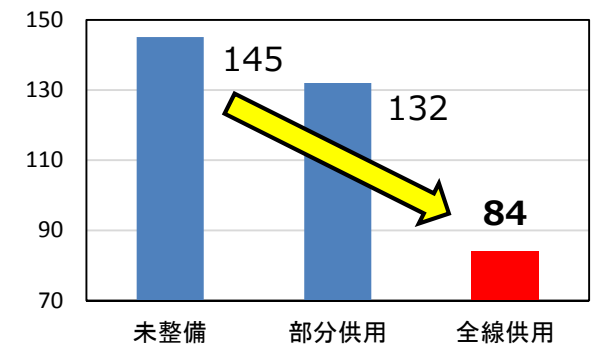


### 全線整備により34分短縮



▲ むつ総合病院から青森県立中央病院までの救急搬送に係る所要時間 (通常期)

### 冬期間でも大きく時間短縮



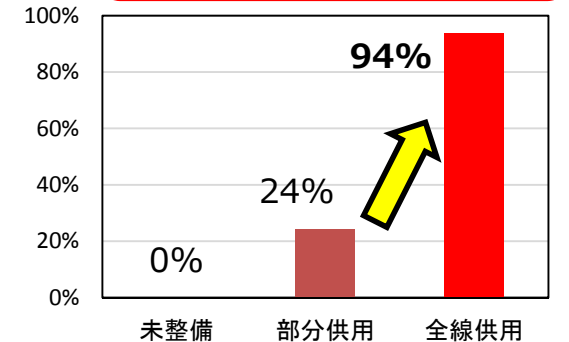
▲ むつ総合病院から青森県立中央病院までの救急搬送に係る所要時間 (冬期)

・大動脈解離、くも膜下出血、異常分娩による母体搬送などは青森市へ救急搬送されている。  
(192件/5年間)

※算出条件

- ・全線供用：下北半島縦貫道路、東北縦貫自動車道八戸線が全区間整備済み
- ・部分供用：下北半島縦貫道路のうち、野辺地～吹越BPまで整備済み
- ・未整備：下北半島縦貫道路全区間未整備

### 搬送患者への負担が大幅に減少！！



▲ 救急搬送における高規格道路の利用割合

# 二次救急医療空白域の解消 ～横浜町の安全・安心～

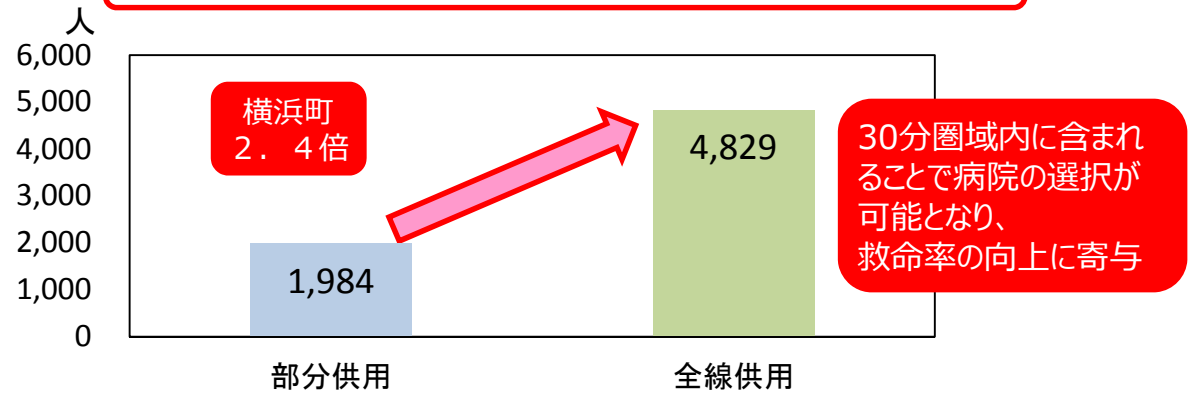
- ◆ 下北半島縦貫道路の整備により二次救急医療施設であるむつ総合病院、公立野辺地病院の30分圏域が拡大
- ◆ **横浜町では二次救急医療の空白域が概ね解消**され、二次救急医療30分圏域の人口が2.4倍に増加
- ◆ 下北半島地域において、**地域医療の安全・安心**が図られる

## 二次救急医療圏域の拡大



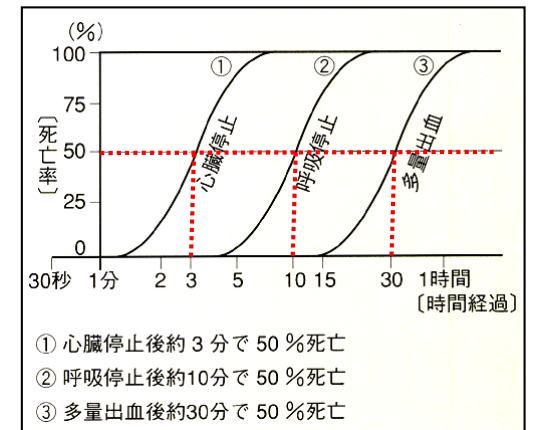
※出典：H22国勢調査メッシュ人口

横浜町約5,000人の二次救急医療の安全・安心が確保される



▲横浜町の拡大圏域人口

- ・搬送時間30分は、出血多量による死亡率が半分になる。
- ・下北半島縦貫道路の起終点周辺に二次救急医療施設があり（むつ市・野辺地町）、道路整備効果の発現性が非常に高い。



▲カーラーの救命曲線

※算出条件

- ①全線供用：下北半島縦貫道路、東北縦貫自動車同八戸線が全区間整備
- ②部分供用：下北半島縦貫道路のうち、野辺地～吹越BPまで整備



〔下北半島縦貫道路〕

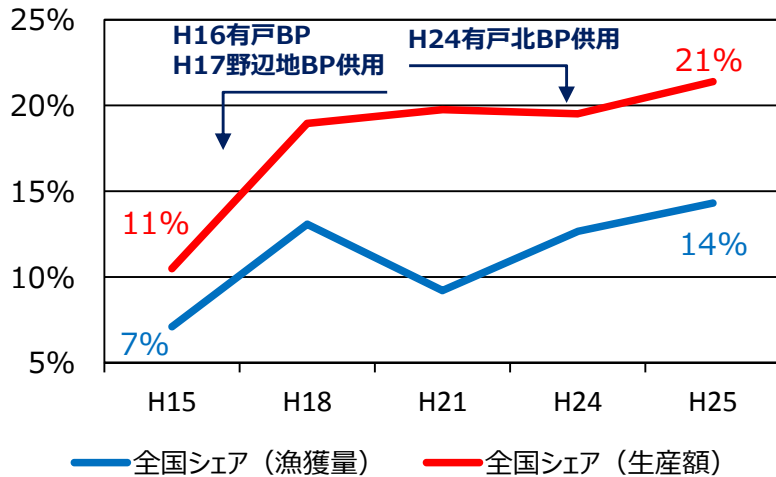
# 『大間まぐろ』の物流を強化。さらなる高ブランド化へ!!

- ◆近年、青森県産クロマグロの全国シェアが延び、物流面から地域の水産業を支援
- ◆今後、道路の延伸により、**速達性・定時性・安定性が大幅改善**。大間まぐろを始めとし、より品質の高い海産物を全国へ届けることが可能に。**更なる高付加価値化に期待**



(青森県観光情報サイトアプティネット)

(まるごと青森HP)

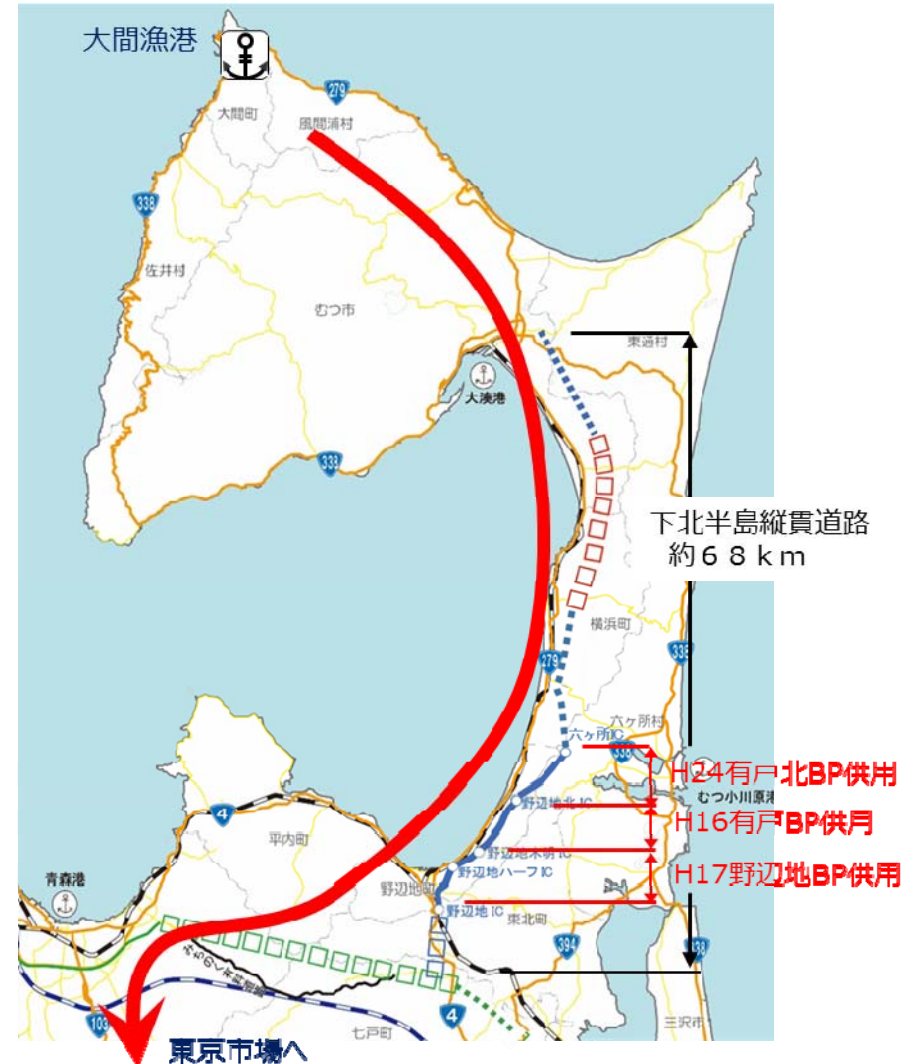


▲青森県産クロマグロの全国シェア

**生産額シェア 1.9倍  
全国 1 位!**

**漁獲量シェア 2倍  
全国 2 位!**

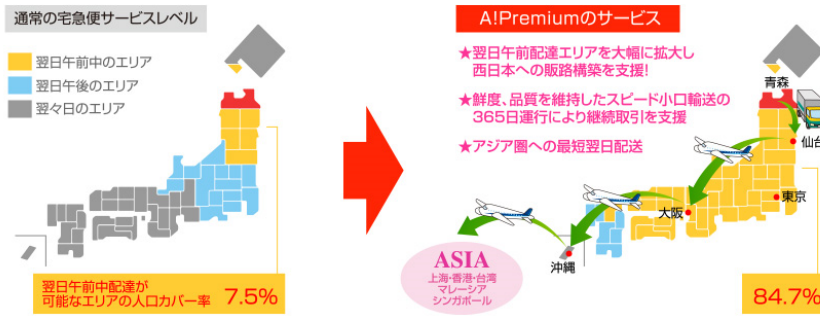
**H25.1.5  
築地市場初セリ  
大間産クロマグロ  
史上最高値  
1億5540万円!!**



〔高規格幹線道路等の主要幹線道路ネットワーク整備〕

# 道路ネットワーク整備により農林水産物の流通拡大を支援

- ◆ 県は輸送時間の短縮と鮮度・品質を確保した付加価値の高い物流システム「青森県総合流通プラットフォーム」構築
- ◆ 平成27年4月27日より、西日本への翌日午後・東南アジアへの最短翌日配達を実現する**新しい輸送サービス「A! Premium」を開始**
- ◆ **道路ネットワーク整備により、出荷可能エリアが拡大**。効率的で安定した集荷・輸送を支援

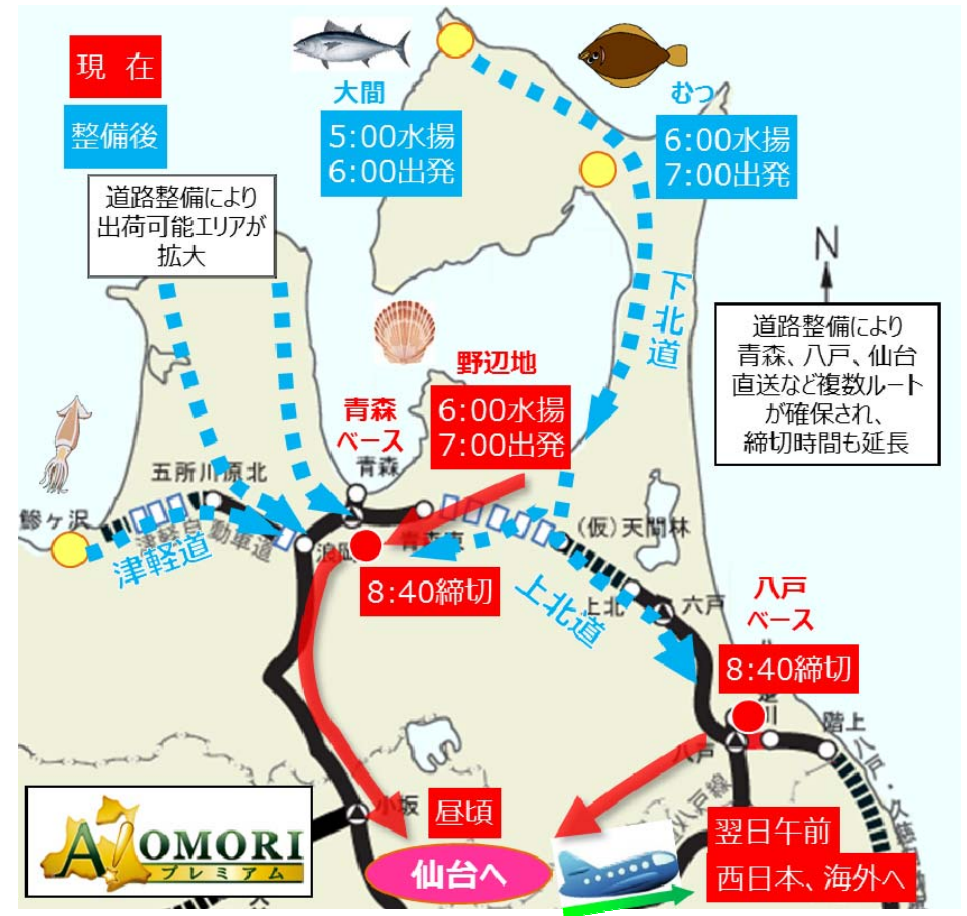


▲「A! Premium」による翌日配達エリアの拡大

◆ 個人所得が高いシンガポール人は日本食好きで、特に「新鮮で美味しい」付加価値の高いものを求めている。またアジア全域では富裕層が増加しており、生産地がわかり、安全で質の高い食品に対しては金に糸目をつけない傾向。

◆ これまで取引のなかった「ホタテ」「ヒラメ」「ソイ」「タコ」などの魚介類が人気で、「新たなビジネスチャンスの獲得」+「生産者 & 漁業者の所得向上」に繋がっている。

〔ヤマト運輸株式会社の話〕



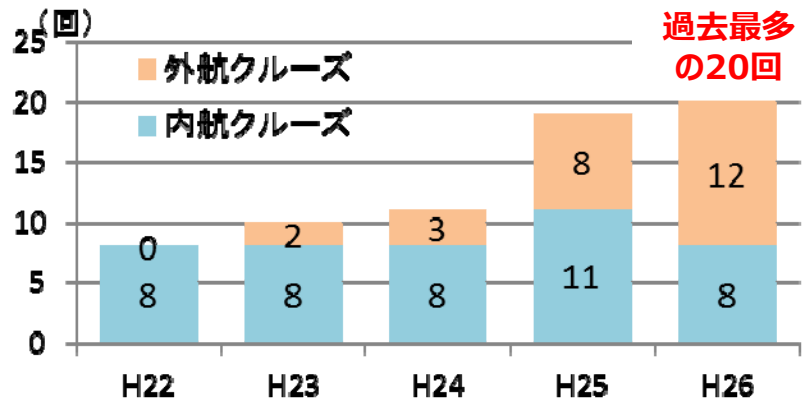
▲主な輸送ルート

▲新たに始まったヤマト運輸(株)の輸送サービス「A! Premium」

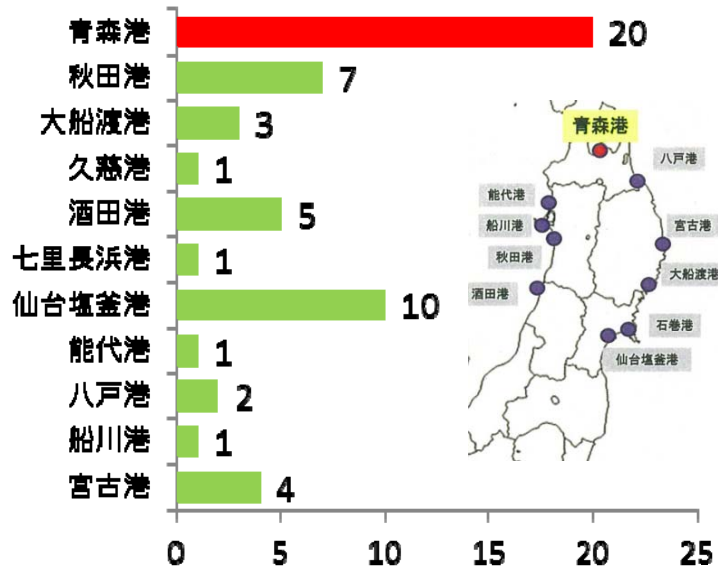


# 東北一のクルーズ船寄港「青森港」からの外国人観光客周遊を支援

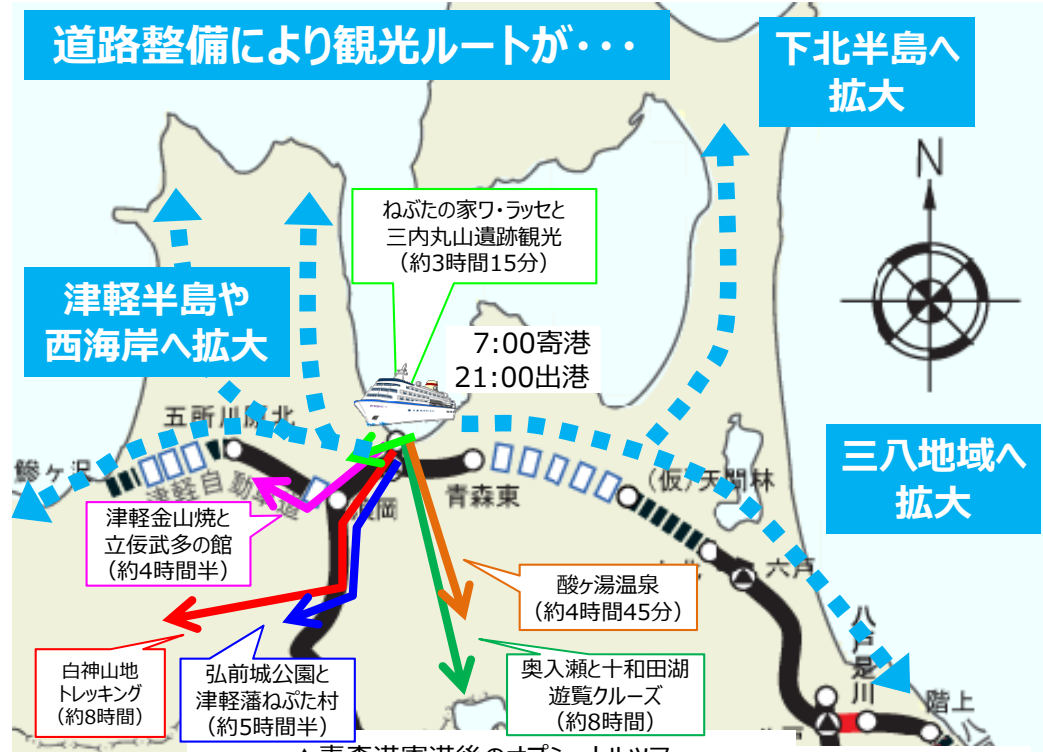
- ◆ 青森港は東北一のクルーズ船寄港であり、近年、外航クルーズ船の寄港が増加
- ◆ 道路ネットワークの整備により寄港時間内の県内の観光周遊ルートの広域化を支援
- ◆ インバウンド拡大による消費動向次第では観光振興につながり、外貨獲得など経済波及効果が期待される



▲青森港クルーズ船寄港数 資料：東北地方整備局



▲東北地方港湾別クルーズ船寄港数 資料：東北地方整備局



資料：プリンセスクルーズHP

▼平成26年寄港クルーズ船

船名	乗客定員
ダイヤモンドプリンセス (115,875t)	2,674名
にっぽん丸 (22,472t)	368名
ぼしふいつくびいなす (26,561t)	476名
飛鳥II (50,142 t)	800名
ハンセアティック (8,378t)	184名
セレブリティミレニアム (90,228t)	2,034名



▲県内の観光地巡りに向かう「サン・プリンセス号」の外国人客 出典：青森商工会議所HP